地域福祉に関するアンケート調査票に係る意見（地域福祉計画策定等委員会）

1 調査項目に対する意見

設問番号	意見	事務局対応
1	「無回答」という表現より「回答したくない」のような表現の方が良いのではないのでしょうか。	「回答したくない」に修正します。
1 1	白井市内に自治会の存在しない地域・集落はありますか。もしあるとしたら「自治会がない」という選択肢を設けても良いのではないのでしょうか。	「自治会がない」という選択肢を追加します。
1 6	イ、ウ、エの内容は同じなのでまとめて一つにするか、違いが明確な他の内容を追記した方がよいと思う。	国が実施している「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査」の設問内容と合わせることで、全国の調査結果との比較を目的としています。 区別がわかりにくい「孤立」、「孤独」の用語の説明を追加します。
1 6	頻度を訪ねていることから「決してない」ではなく「全くない」の方が良いのではないのでしょうか。	「全くない」に修正します。
1 8	近所に敷地内が草ぼうぼうで草が道路にはみ出し、住んでいるか空き家かわからない家があり、周りに迷惑をかけています。家の中に死んで放置されている人がいるかもしれません。 ニュータウンも高齢化によりこのような家が増えており、市役所の広報にもこのような家を見つけたら市役所に連絡して、と書いてありました。 この内容をごみ屋敷の項目に加えるか、独立して追記ください。	「家の手入れが行き届いていなく人が住んでいるかわからない世帯」を選択肢 2 として追加します。
1 9～ 2 1	「ボランティア活動」と入れる必要はあるのか？ここで知りたいのは「助け合い活動」が起こっているのかなのであれば、「ボランティア活動」という文言はなくても良いのでは？（ボランティア活動、と言うと人によってはハードルが高いイメージがあり本来知りたいことを正確に知れない可能性があるため）	設問 1 9-1、2 0、2 1 の「ボランティア活動や助け合い活動」を「活動」のみに修正します。

設問 番号	意見	事務局対応
23	<p>社会福祉協議会や民生委員がどこにあるか、電話番号、ホームページアドレスなどの情報をここに追記すべき。</p> <p>アンケートは、記入する人にメリットがないと自分の時間をさいて書いてくれません。このアンケートをもらって今困っている人がいたらどこに連絡したらいいか知りたいはず。</p>	<p>市社協の説明文の下に所在地「白井市役所保健福祉センター3階」とホームページの二次元コードを掲載します。</p> <p>民生委員は、市の民生委員の紹介ホームページの二次元コードを記載します。</p>
29～30	<p>10月25日の会議の議論の中では「自身の避難場所の正しい認識が低い」ことが課題であると認識。「災害時に自身がどこに避難するか知っているか、動き方を知っているか」を測れる質問を追加すべきでは？</p> <p>かつ、その課題を引き起こしている理由（そもそも知る手段がない等）を明らかにできる質問があった方が打ち手検討に繋がるのでは？</p>	<p>既に問29の選択肢の中で「避難場所や避難経路を確認している」という項目があること、また、国の方針で災害発生時に自宅で身の安全が確保され、引き続き居住できる場合は在宅避難が推奨されていることから、質問項目としての追加はしないこととします。</p>
34	<p>利用したいと思うか尋ねていることから、「利用を検討する（利用している）」という選択肢を「利用したい（利用している）」及び「利用を検討する」に分けた方が良いのではないのでしょうか。</p>	<p>選択肢を下記のとおりとします。</p> <p>1 現在利用している 2 利用したい 3 利用しない 4 わからない</p>
全般	<p>こういうアンケートは、市役所職員が市民と同じ目線で市民のために本気で何かをやりたいんです、ということが伝わるような内容にしないと誰も自分の時間を使って回答しません。</p> <p>市民にとって役立つ情報をもっと増やし、同じような設問は減らして回答の敷居を低くした方が回答数は増えるのではないのでしょうか。</p>	<p>保健福祉制度の概要や市役所等の窓口を紹介するしろい保健福祉ガイドブックのホームページの二次元コードを記載します。(P11)</p> <p>設問数は減らさない方向とします。</p>

2 調査方法・分析等に対する意見

意見	事務局対応案
<ul style="list-style-type: none"> ・1,500 人に送るアンケートの回答期限が1月6日となっているので、発送日は余裕をもって12月5日以前が良い。 	<p>極力早期に発送ができるように努めます。ただし、現状では、調査票の印刷製本等の関係で12月5日以前の発送は難しい状況です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・6万人の市民に対してN数1500名は少なすぎると思う。少なくとも4割、5割は集めないとアンケートとして意味をなさないのでは？ ・市のLINEや保育園・学校経由で振り出しできると、子育て世代はアンケートを集めやすいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・統計学的に必要なサンプル数は母集団の大きさに比例するものではなく、一般的な社会調査の場合、母集団の大きさにかかわらず400サンプルあれば十分な信頼性が確保できるとされているため、回答率を4割と仮定すると600サンプルは確保できる計算であり、統計上問題ないと考えます。 ・対象者は無作為抽出とするため、子育て世代を重点的に対象としたり、特定したりすることは考えておりません。周知方法としては、市ホームページに掲載しますが、対象者が限られるため、LINEでの送付・告知は行わない予定です。
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート分析の手前にある、市民の分布なども知りたい（年齢、世帯形態、白井市在住歴、職業など）。 ・上記に照らした際に、アンケート取得数が各属性の何%くらいをカバーしているのかも知りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の分布は集計可能です。 ・各属性の母数を国勢調査等の既存統計数値とするのであれば割合を算出することは可能です。